

本年度の重点	1	児童一人ひとりを大切にし、互いに認め合える温かい人間関係を育む実践に全校で取り組む。
目標（評価規準）		児童一人ひとりを大切にし、認め合える人間関係の育成に全職員で努める。
重点に係る現状 設定理由		児童一人ひとりの個性を十分理解し、全職員で全児童の指導に努めたい。互いが認め合い、思い合える学級指導の工夫・改善を図りたい。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	「職員の主体性、創造性のもと、協働性に富んだ教育活動を行っている」「いじめ、不登校の未然防止、早期対応を適切に行っている」「一人ひとりを大切にし、個に応じた指導をしている」のアンケート項目では、教職員一人ひとりが個に応じた指導を心がけ、達成感をもっている。
各アンケート等の結果	保護者アンケート「学校は、子どもたち一人ひとりを大切にし、個に応じた指導に努めている」、児童アンケート「学校生活が楽しい、旭小学校が好き」および関連の項目では、概ねよい評価である。
自己評価結果 （見解と改善方策）	児童指導の課題等を全職員で確認し、指導の方向を全体で共有することができた。また、SC、巡回相談、および外部関係機関と連携し、児童理解を深め、適切な対応を検討したり、実施したりすることができた。不登校やいじめ対応については、各クラスの実態共有を大切にし、職員全員での適切な対応策の理解を図るよう努めた。個を生かす指導や個を生かす学級経営については、お互いの実践を検討し、交流する場を設け、よりよいものを目指していく必要がある。今後も、学級の特性や個々の資質を細かにつかみ、思いやりあふれる学年・学級経営を目指して取り組んでいきたい。
学校関係者評価結果	学校行事等を通して、明るく元気に学校生活を送る子どもたちの様子がうかがえる。地域の大人も積極的に子どもたちに声をかけて、見守っていききたい。
最終改善方策	小規模校の特性を強みととらえ、全職員で全校の子どもたちを見ていく姿勢を大切にし、一人ひとりが活躍できる教育活動を基本に、学級・学校づくりを進めていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	基礎学力の向上、家庭学習の習慣化に努める。
目標（評価規準）	学習習慣の定着に努め、自ら学ぶ姿勢を身につける。	
重点に係る現状 設定理由	教職員間の基礎学力について共通理解を図り、校内研究の推進、教科指導の工夫・改善をめざしたい。子どもたちの学習習慣をつけさせるため、家庭学習の工夫を図りたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	「各教科の基礎・基本を明確にした学習指導を行っている」「楽しく、分かりやすい、魅力ある授業づくりを行っている」「学校研究を推進し、指導の工夫・改善、指導力の向上に取り組んでいる」の項目においては、概ね目標が達成できていると捉える。
各アンケート等の結果	保護者アンケート「学校は、授業・個別指導を工夫して、学習内容の定着に努力している」「学校は、家庭学習を工夫して、学習習慣の確立に努力している」、児童アンケート「授業は楽しい」「授業の内容がわかる」の項目において、概ね良好という結果である。
自己評価結果 （見解と改善方策）	アンケートでは目標達成はできているものの、高学年になるにつれ、授業理解に関して低い評価をする子どもが多くなっている。今後もさらに、わかる授業、楽しい授業の実現を目指し、指導の工夫・改善を図っていきたい。 家庭学習については、学校・家庭両者の努力の成果も少しずつ出てきているところも感じられるので、今後も連携を密にして取り組んでいきたい。また、今年度より、校内研究のテーマを「考え、議論する道徳家授業の在り方」とし、深い学びを引き出すための授業づくりについて研究を進めてきた。道徳教育に限らず、新学習指導要領の本格実施と合わせて、さらに児童にとっての「深い学び」につながる授業づくりにむけて、職員の指導力のさらなる向上に努めたい。
学校関係者評価結果	基礎・基本の学力の積み上げを大切に、家庭と連携し、一層の努力をお願いしたい。
最終改善方策	計画的な授業計画、内容の充実、指導力の向上を目指し、教職員の共通理解を図り、研究・研修に取り組んでいく。また、家庭学習の習慣化に向け、家庭と連携して継続的に取り組む。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校・家庭・地域の連携を図る。
目標（評価規準）	学校・家庭・地域の連携した教育活動を展開する。	
重点に係る現状 設定理由	保護者、地域の方々の協力を得ながら、連携したより良い学校環境づくりに努めたい。 学校の情報を積極的に発信し、学校理解を深めたい。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	「保護者、地域等に教育活動の情報提供を積極的に行っている」の項目は、地域の方々に向けた行事や学年独自の活動等を行い、学年・学級通信等で情報を発信していることから、概ね良い評価となっている。
各アンケート等の結果	保護者アンケート「学校便り、学級通信等により教育活動や児童の様子を知ることができる」「学校は、児童・保護者からの相談や連絡に適切に対応している」「学校は、保護者や地域の方々との連携ができています」の項目において、達成基準を満たす結果を得た。
自己評価結果 （見解と改善方策）	例年の栽培活動の支援に加え、草刈り作業、枝木の伐採作業、溝掃除等、保護者・地域から多大な協力を得て学校環境を整備することができた。また、2年目となる「夏まつり」も家庭や地域との連携がさらに図られたと考える。地域をあげての見守り活動に支えられ、事故・事件なく、子どもたちの安心・安全を守ることができた。本校の特色ある活動に位置づけられている学校林や畑の活用については、保護者の協力を頼っているところが大きく、学校としての主体性という意味での課題もでてきているため、連携を密にしなが、教育計画と併せ慎重な対応を行ってきた。小規模校として学校力を高めるためには、保護者・地域の理解・協力を得ることが不可欠と考える。そのためにも、常に感謝の気持ちを大切に、保護者・地域とのよりよい関係を築いていきたい。
学校関係者評価結果	安全指導を含め、地域全体で児童の心身の成長を見守りたい。学校のために保護者・地域も連携して協力体制をとっていきたい。
最終改善方策	日常的に情報発信を行い、行事、授業参観、学校公開等を活用し、地域、保護者、学校との連携をより深め、「地域の学校」づくりを目指したい。